

はばだけ！ 広島サンダーズ

久原 大輝

8月6日、広島に原爆が投下されて80年という節目を迎えた。今年も猫田記念体育館の敷地にある慰霊碑へ献花し、犠牲者の冥福と恒久平和を心から願って黙とうをささげた。

今もなお世界各地では戦争や紛争が続く、平穏な日々を望む



慰霊碑に黙とうをささげる
選手たち (6日)



勇気と感動を世界へ

市民や、若い兵士が犠牲となる
二ユースを目の当たりにする。
バレーボールができる環境は、
決して当たり前ではないことを
思い知らされる。

20日には広島ドラゴンフライズが立ち上げた「おりづるリレー」の報告会に参加。この活動を通じて、広島を背負って戦う意味、われわれが発信すべきことを考える良いきっかけにもなった。私も広島に来て12年目にして初めて平和公園を訪れ、原爆ドームを間近で目にした。目の前に残された姿は、原爆の威力と悲惨さを表していた。

われわれにとってバレーボールは生活そのものである。世界中の人々へチームスローガンでもある「勇気」と「感動」を届けること、スポーツが平和な世の中をつくるために果たす役割の重要性を伝えること、それがわれわれの使命である。チーム関係者全員がその思いを胸に刻み、これからも歩みを進めていく。
(広島Tマネジャー)